

第14回アジア・オセアニア気象衛星 利用者会議の参加報告

令和7年2月14日

静止気象衛星に関する懇談会

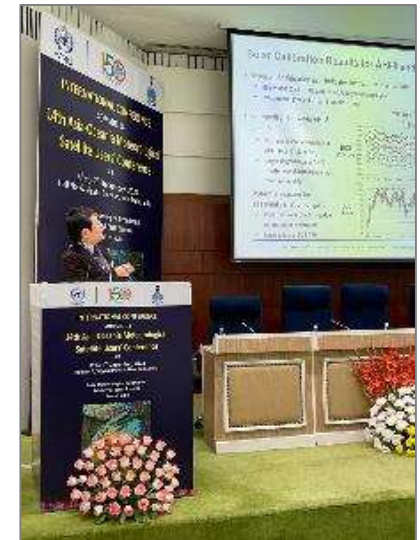
気象庁

アジア・オセアニア気象衛星利用者会議とは

- 気象衛星・地球観測衛星の運用機関やデータ利用者が一堂に会する国際会議
- 学会形式の本会議（3日程度）、アジア・オセアニア地域の衛星データ利用者を対象とした研修（2日程度）、その他の関連イベントで構成されている。
- 第14回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議（AOMSUC-14）
 - 会期：令和6年12月2日～7日
 - 開催地：インド・ニューデリー
 - 参加者：
アジア・オセアニア地域の気象機関、気象衛星運用機関、国際機関などから参加。
日本からは、東海大学中島孝教授及び気象庁から3名が参加

AOMSUC-14 本会議

- 会議冒頭、中島教授から基調講演をいただいた。
 - タイトル：Investigations of the Cloud Evolution Process from Novel Satellites
- 気象庁からは、ひまわり8号・9号や、ひまわり10号に関する3件の発表を行った。
 - ひまわり8号・9号の現状とひまわり10号について
 - ひまわり8号・9号可視近赤外バンドの校正精度
 - ひまわり8号・9号バンド7の迷光評価



AOMSUC-14 研修イベント

- 中島教授から講演をいただいた。
 - タイトル : Satellite Remote Sensing of Clouds - Retrievals and Validations
 - 雲の発達過程の研究等を説明
 - 本年打ち上げられたJAXAと欧州宇宙機関の雲エアロゾル放射ミッション「EarthCARE」衛星の最新情報も紹介
- 気象庁からは、ひまわりデータの利用方法に関する研修を実施した。
 - 実技も含む研修で研修生からも好評であった。

